

「元気が一番」塾

2006.3.18 優しい風 (Loving-wind) 仲島

今日のテーマ「2つの指導案を読み比べながら、指導案の書き方について考える」

「よ～し、がんばるぞ！ そんな4月のスタートにするために・・・」

1. たかが指導案、されど指導案

- ・指導案を書くのは、本当に大変。でも書けば力がつく。
- ・指導案がうまく書けるようになったら、自然に授業もうまくなっている。
- ・指導案がいい加減でも授業はうまい先生はいる。でもそれでは成長に限界がある。
- ・頭でわかっているつもりでも、いざ書こうすると書けないもの。だから書くことによって子どもの事も、教材の事も。指導の事も、整理されていき、いい授業が生まれる。
- ・指導案を書くことで、教師自身を見直す、子どもを見直す、授業を見直す、のである。
- ・たかが指導案、されど指導案。指導案を書くことによって教師は伸びる。

2. 指導案の見方のポイントあれこれ

- ・指導案の一番大切な所は趣旨の部分。趣旨はじっくりと読んでいく。
- ・1回目に読んだ時、あーこんな授業なんだと頭にスーと入る指導案はまずOK。
→こんな子どもたちに、こんな教材を使って、こんな指導がしたい
児童観、教材観、指導観が一本の筋でつながっていると スーと読める
- ・2回目では次の点に気をつけて詳しく読んでいく
 - ・「このクラスの子どもの様子」が頭に浮かんでくるか。(子どもの実態)
 - ・この先生が「この授業で目指している」ことは何かがわかるか。(教師の意図)
 - ・「どう指導したい」のか授業展開の具体が見えてくるか。(指導の具体)
- ・展開の部分では、どこで「子どもの心が揺れる」を読み取っていく
- ・そして、その時の指導の手だてはどうなっているかをみる。
- ・導入の時は？ 終わり方は？ 提示するもの等は？
- ・ここは「自分ならこうするのに・・・」という対案を考えてみる

3. 学年の最後の日(修了式) 心に残る言葉を・・・

先生の「体温のある言葉」を子どもは待っている
通知表、学級通信、文集、写真、握手、だっこ、・・・

4. 新学期〇年〇組学級開き(始業式) 「いい出会い」と「いいスタート」を

「この1年楽しみだなあ・・・」「この先生とやれるのがうれしいなあ・・・」
って子どもにワクワク感・・・そのために始業式に何をしたらいいか。
先生の言葉、黒板の字、学級通信、連絡帳、運動場で遊ぶ・・・

※次回の元気塾 4月15日(土) 10:00~12:00 若竹公民館

- ・低学年の体育の指導について
- ・10分間の実践発表 桔梗友行先生